

会議名称：全学教育推進機構 組織別内部質保証委員会

日時：令和7年4月30日（水）12:00~12:57

場所：第3会議室

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
プログラムの履修・修得状況	2024年度の本プログラムにおける学生の受講状況、そして受講後に収集したアンケートから、プログラムの履修・修得情報は次のようにまとめることができる。学習マネジメントシステムに登録された履修者は672名であった。2022年度の履修者445名、2023年度の履修者714名といった変遷からすると、おおむね2023年度と同等の履修者を集めることができたとも考えられるが、後述するようにその学年別の内訳には変化が表れており、科目の履修状況については注視が必要であるものと考えられる。672名の履修者については、496名が合格し単位を取得した。合格となった学生の平均点は、79.7点、成績の分布は秀：15%、優：24%、良：21%、可：14%、不可：26%となった。2023年度のプログラムでは、平均78.4点、秀：10%、優：28%、良：20%、可：18%、不可：24%となっており、合格者のスコアは高めに推移しつつ、不合格率も上昇する結果となった。学習マネジメントシステムからは、合格した学生の平均課題提出数14.2回（総課題数は15回）となっており、「可」以上の評定を受けた学生は、過去の年度と同様に、学習コースの内容について引き続き漏れなく十分に取り組んだものと考えられる。また、2024年度は、プレミアプロジェクトでオンライン動画の閲覧状況を把握するための枠組みを備えた動画配信システムを活用した授業を第1回～第8回にかけて実施した。この動画配信システムからは、1週間の学習期間の中で、学生が1日～2日間に集中的に受講している状況が多くみられたが、締め切り直前にあわてて閲覧しているケースもあるものの、計画的に集中実施している学生の様子も確認できた。一方で、複数人で動画を閲覧していると考えられる状況も見られており、実際の履修状況を継続的に確認する必要があるものと考えられる。
学修成果	出題した課題の採点状況から、合格した学生についてはほぼすべての授業回において学習期間内に課題の提出が実現された。また、合格者の平均点は79.7点であり、課題の内容理解においても、十分な成果が得られているものと考えられる。授業後に実施したアンケート調査では、その中で「この授業を通じて、知識が深まった、能力が高まったと感じますか」という質問項目については、163名の回答があり、86.5%の学生が「そう思う・どちらかといえばそう思う」のポジティブな回答となった。2023年度（同様の集計で84.1%）から引き続き、学習者が授業内容について学びを深め、その成果をきちんと身に付ける状況が実現できているものと考えられる。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	授業後に学生に対して実施したアンケート調査では、前述の通り、「この授業を通じて、知識が深まった、能力が高まったと感じますか」という質問項目について高い評価を得ることができた。「この授業に意欲的にとりくみましたか？」という質問に対しては、163名の回答のうち、88.2%の学生が「そう思う・どちらかといえばそう思う」のポジティブな回答となった。履修・習得状況にて紹介した成績の分布状況も鑑みると、本授業に真剣に取り組み、アンケートについても回答する学生については、学びに十分に集中し、理解を深めたことができたものと考えられる。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	2024年度は672名の履修者となり、2023年度の714名からは5.9%の減少となった。内訳をみると、2024年度は3年生104名、2年生126名、1年生442名であった。2023年度は2年生233名、1年生481名となっており、総数の変化に対して2年生の履修人数の低下が大きく、履修者の分布が変化していることが確認できた。2025年度については、引き続き入学前の特設サイトを通じたプログラムの紹介、入学後における学内広報、履修要項や履修ガイダンスを通じた周知を継続しつつ、受講者の学年別変遷を注視する。
授業改善の取り組み	2024年度は、2023年度までの授業の状況を振り返りつつ、各担当教員がそれぞれ授業改善を実施した。ここまでで言及したアンケートの結果から、学生を惹きつけ学びを深めるための授業内容の確立がなされているものと考えられる。さらに、授業教材に関するアンケート項目「テキストおよび講義資料等は、授業を理解するために十分な分量・内容だったと思いますか？」の質問では、162名の回答があり、82.7%の学生が、「そう思う・どちらかといえばそう思う」との回答が得られた。同様の集計については、2023年度では72.2%、2022年度では64.7%となっており、授業内容の改善効果がみられたものと考えられる。2025年度については、MDASHリテラシーレベルのモデルカリキュラムの更新にあわせ、生成AIの話題をさらに取り入れるなど、最新のテーマに適應するように改善を継続する。他方、アンケートの回答者数という観点でみると、2023年度の714名中246名（回答率34.5%）、2022年度の445名中252名(56.6%)と比べると、2024年度は672名中163名（24.3%）と回答率の低下が見られ、モチベーションの高い学生に偏った回答になっていることが考えられる。2025年度は、授業改善アンケートでさらに多くの学生の情報を収集できるよう、アンケートに回答するように働きかけを強化する必要がある。